

景気動向調査 令和5年2月分（令和5年2月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【2月の景況】

2月のDIは、9指標のうち6指標が好転、3指標が悪化という結果となった。

主要3指標はいずれも好転しており、売上高DIが4ポイント増加、収益状況DIが2ポイント好転、景況感DIも6.5ポイント好転となっている。

大分県内における景況感DIは、令和4年10月以降、非製造業を中心におおむね改善傾向にある。また、原油や原材料の価格高騰を受け、販売価格DIが+24ポイントと高い水準にある。

大分県内は、新型コロナウイルス新規感染者数も下旬には2桁台まで落ち着き、人流増加が見られた。



景況感DI値

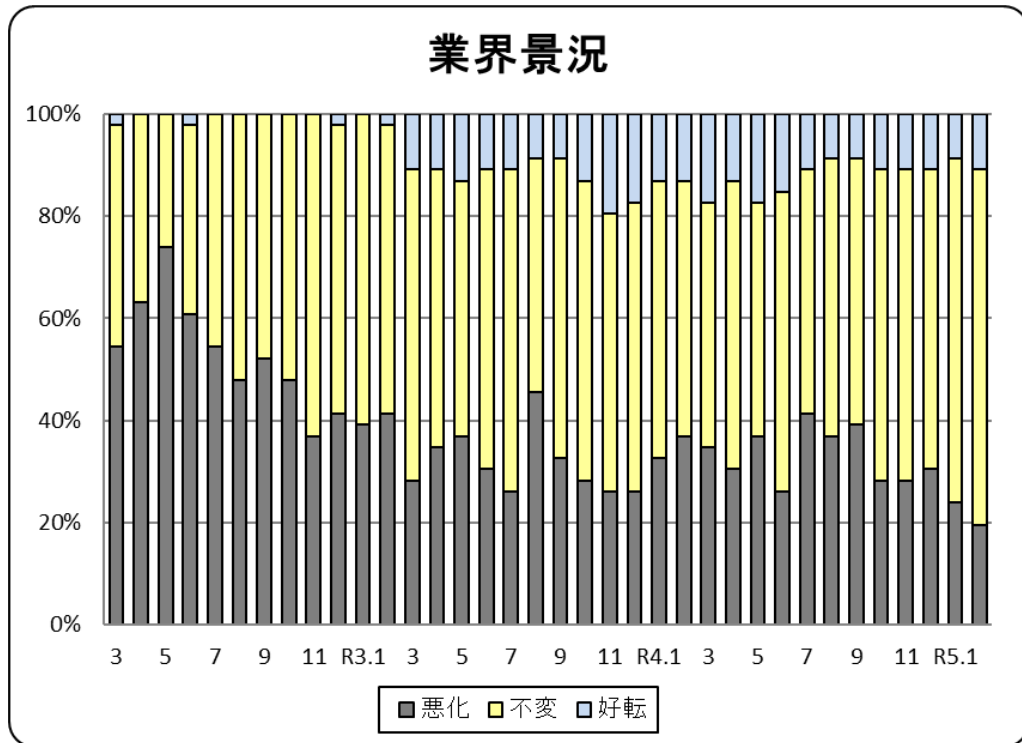


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

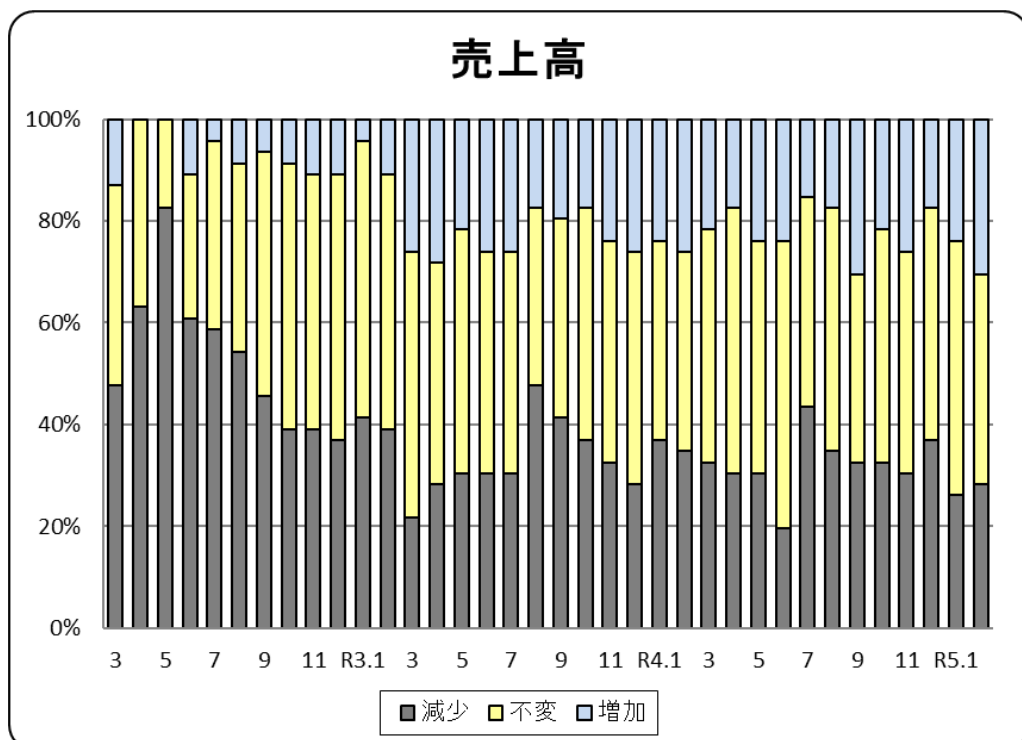
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、8カ月ぶりにプラスとなり、前月より4ポイント増加して+2ポイント。収益状況DI値は、△15ポイントで前月より2ポイント好転。雇用人員DI値は、△13ポイントで前月から4ポイント減少となった。

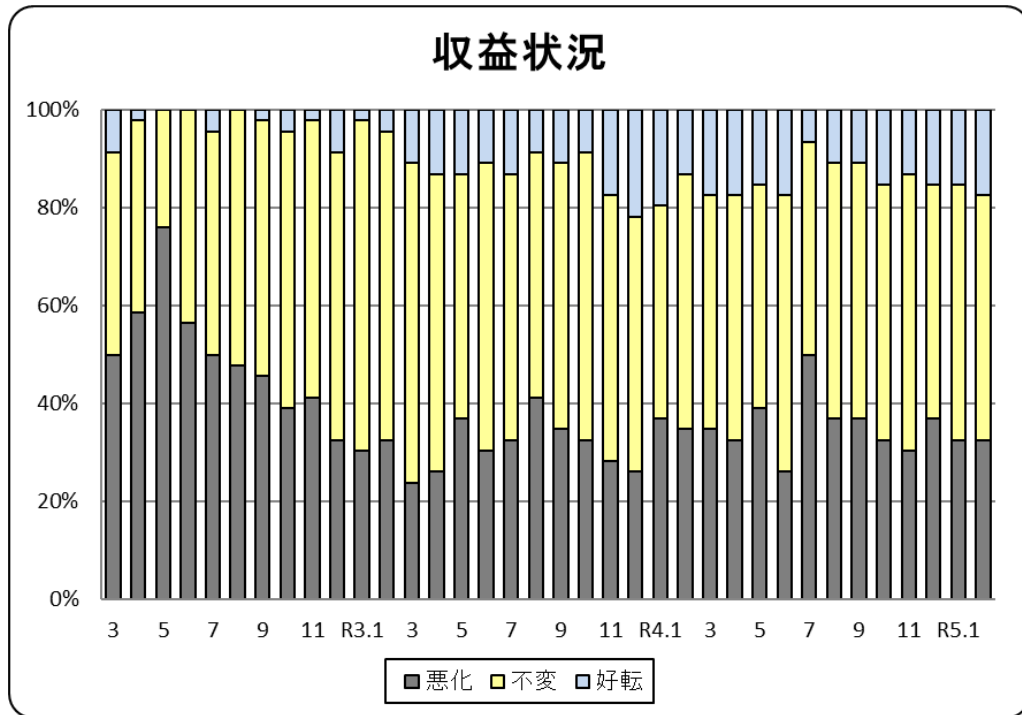
景況の動向は、好転は5組合、悪化は9組合であった。DI値は△8.7ポイントで前月から6.5ポイント好転。割合で見ると、好転11%、不変69%、悪化20%であった。好転した業界はすべて非製造業で、小売業、商店街、建設業、運輸業であった。



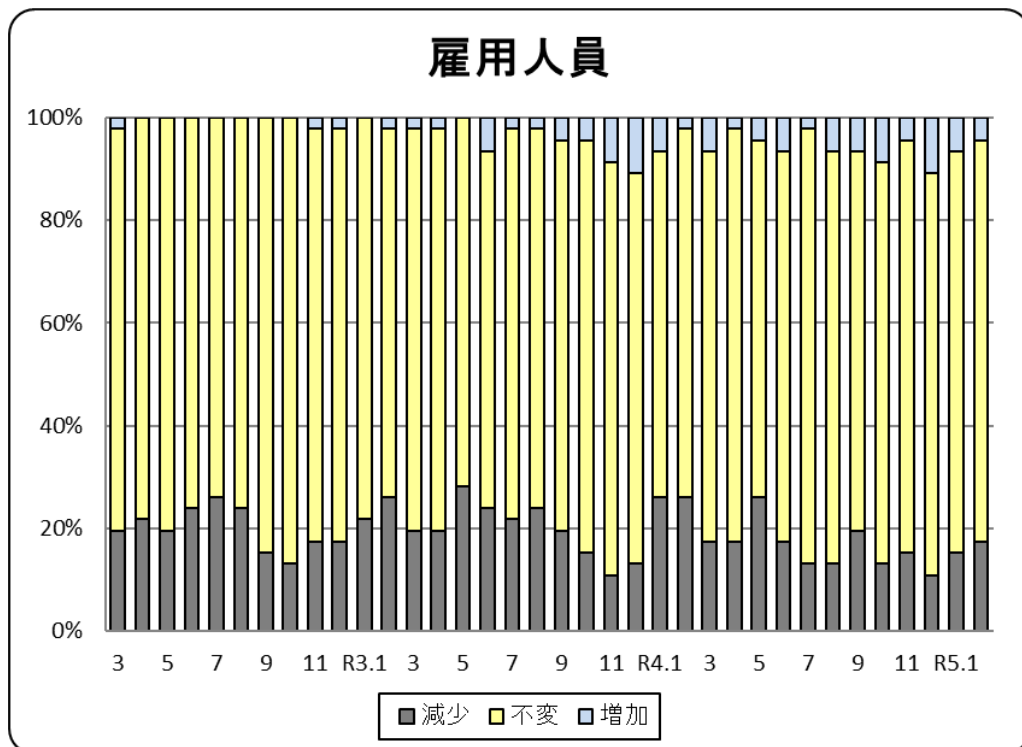
売上高の動向は、増加は14組合、減少は13組合であり、DI値は+2ポイントで前月から4ポイント増加。割合で見ると、増加31%、不変41%、減少28%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は8組合、悪化と回答した組合は15組合であった。DI値は△15ポイントで前月から2ポイント好転。割合で見ると、好転17%、不変50%、悪化33%であった。



雇用人員の動向は、増加は2組合、減少は8組合であった。DI値は△13ポイントと先月から4ポイント減少。割合で見ると、増加4%、不変78%、減少18%であった。増加したのは鉄鋼・金属、小売業のみである。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比) = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合] × 100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

